

日本人権教育研究学会 第3回研究発表大会記事

大会概要

1. 期 日 2003年1月25日(土)
2. 会 場 兵庫教育大学神戸サテライト(パルモア学院)
3. 日 程

9:30	10:00	12:00	13:00	16:00	16:30	17:00
受付	研究発表	理事会 昼食	シンポジウム	総会	移動	懇親会

大会趣旨

日本の社会福祉・社会保障政策は、1990年代以降、大きな構造改革の渦中にあり、子ども・家族に関連する諸政策もその例外ではない。たとえば、児童福祉の分野では、新旧エンゼルプランの策定や児童福祉法の大改正、児童虐待防止法の制定などがなされた。一方、学校教育では「生きる力」や「ゆとり」が謳われた新学習指導要領の実施ほか、教育制度の改革が相次いでいる。就学前の子どもについては、子育て・家庭支援策が推進されるなか、やっと幼保一体化が具体化されつつある。そして、日本の家庭生活は、男女共同参画社会基本法や育児・介護休業法、介護保険制度などの実施により、その急激な変貌ぶりに最近、一層、拍車がかかっている。そこで、本研究大会では「子どもの福祉と教育」の今後の方向性について、「子どもの権利」という観点から考察を深めていった。

研究発表

【第1分科会】

-
- (1) 10:00 中学生用教材「揺りかご同窓会」を取材して
甲南女子大学 上山 勝
 - (2) 10:30 岐路に立つ同和教育
- 「同和教育から人権教育へ」をめぐって -
京都市立久世中学校 原田琢也
 - (3) 11:00 人権教育実践者の育成
- 学びをより確かなものとするために -
神戸親和女子大学 大高 忠
 - (4) 11:30 福沢諭吉の「人権」思想
法政大学 笹川孝一

【第2分科会】-----

- (1) 10:00 子どもの人権に関する臨床教育学的考察
大阪市立第二工芸高校 梨木昭平
- (2) 10:30 「いのち」を考える教材と授業実践
横浜市立篠原小学校 安達 昇
- (3) 11:00 中学校における福祉教育の実践
- 「思いやりの心」を育てる取り組みより -
西脇市立西脇東中学校 松橋明子
- (4) 11:30 中国における子どもの福祉と教育に関する法制整備の現状と課題
兵庫教育大学連合大学院 牛 志奎 [NiuZhikui]

シンポジウム パネラー発表要旨 -----

テーマ 「子どもの福祉と教育」

「ひとりで抱かえ込まないで」

大阪市立大学 山縣 文治

ともに生きる力は、学校教育が学校内で教えることができるものでもなければ、「とってつけたような」ボランティア活動で生まれるものでもない。日常の生活そのものの中で培われるものである。生活とは、人や制度とのつながりである。社会の中でのつながりがうまくいかない親や子、さらに社会資源そのものが現代社会にはあふれている。「一人で抱え込まないで」。私たちが目指している福祉の目的の一つはこの点にある。

「子どもの人権と保育 - マイノリティーとしての子ども・親と人間関係 - 」

神戸親和女子大学 寺見 陽子

子どもの権利条約に批准して以降、核家族化・少子化によって子育て不安が深刻化する中で、今日その支援のあり方が問われている。子育てとは次世代を担う人間を育てる作業でありながら、その当事者である子どもと親は社会の中ではマイノリティーな存在である。子どもと親の人権を保障する支援の視点について保育の立場から考える。

「子どもの『ために』を再考」

花園大学 古橋エツ子

子どもたちの自己決定権・自立・意見表明権などは、親を含めた大人たちに侵害されていないだろうか。両親が揃っていても、母親がほとんど一人で子どもの養育をしているという「擬似母子家庭」の現状は、子どもから「父親」をうばっているのではないだろうか。いまや、子どものためにと考えることから、「子どもとともに」を視点に子どもの福祉を再考しなければならない。